



有田陶磁美術館 常設展示 リニューアル!!



4月27日(土)の展示解説の様子

平成31年4月27日(土)、旧田代家西洋館国重要文化財指定記念特別展「よみがえるレトロモダン」展の開催と同時に、有田陶磁美術館の常設展示を一新し、公開を始めました。有田陶磁美術館の常設展は、長らく一階に磁器創始期から江戸期を中心とした古陶磁の名品を、二階に明治期から現代の焼き物を、有田焼の歴史や様式の紹介とともに展示していました。今回、明治9年(1876)建設の旧田代家西洋館が復原され国の重要文化財となったこと、有田陶磁美術館が明治7年(1874)に建てられた焼き物倉庫(石倉)を改築した伝統的建造物であること、時代が近い二つの建物が距離的にも近い場所に存在することなどから、西洋館と美術館を連動させる展示をすることになりました。

そもそも有田陶磁美術館は、前述のとおり明治7年建造の石倉を改築し、昭和29年(1954)に佐賀県登録博物館第一号として開館しました。戦後復興期の最終段階で経済も安定しはじめたころのことで、「日本磁器発祥の地に焼き物博物館を」という機運が高まり、小さいながらも当時世界で三つしかなかった焼き物専門の美術館として開館したのです。昭和34年(1959)には館の横壁に、有田と関係の深い象徴派詩人蒲原有明が詠んだ詩碑が陶板にてはめ込まれました。年月とともに詩碑の記憶が風化することのないように願いを込めて、当時の最新技術による陶板が設置されたのです。

今回の常設展示リニューアルでは、館内に入ると佐賀県重要文化財の「色絵狛犬」と「染付有田皿山職人尽し絵図大皿」が出迎えます。そして、比較展示品として17世紀後半から18世紀にかけてヨーロッパでも

てはやされた海外輸出向け磁器を紹介した後に、明治期の製品を展示しています。万国博覧会へ出品したと思われる製品や幕末期に海外輸出を再開させた久富家の製品、旧田代家西洋館を建てた田代家の製品、陶磁美術館を建てた初代有田町長である平林伊平の製品などが並びます。



南里さんと「色絵桜樹武士図耳付大花瓶」

また、今回の展示替えに際し、長崎県佐世保市在住の南里裕美子さんより、先祖である白川の窯焼き・南里嘉十が制作した「色絵桜樹武士図耳付大花瓶」をご恵贈いただきました。南里嘉十の製品はアメリカ・フィラデルフィア美術館にも収蔵されており、万博に出品するために作られたものかと思われます。さらに禁裏御用を務めた辻家や深海家など、明治期を代表する名窯ごとに展示は2階へと続き、大正昭和期の製品まで展示しています。その中に、昨年度末に愛知県名古屋市の三宅加代子さんよりご恵贈いただいた面白い資料があります。昭和36年10月18日に日本特殊陶業初代社長で有田町長も務めた、江副孫右衛門夫妻の金婚式に有田町が贈った額鉢で、制作は初代奥川忠右衛門、絵付けは川浪養治という、大正・昭和期の名工の作です。また、その近くでは彼らの師匠筋である、名工井出金作が制作し、名画工川浪喜作(竹山)が絵付けを施した「染付老松文水槽」も見ることができます。

有田陶磁美術館は、明治からの時を刻んだ建物の中で、有田の近代を物語る焼き物を展示する場として、皆様のご来館をお待ちしています。(永井都)

皿 季刊 山

No.122

夏
2019

有田町歴史民俗資料館・館報

「よみがえるレトロモダン」開催しました。

平成30年12月25日付で国の重要文化財(建造物)に指定された、旧田代家西洋館において、国重要文化財指定記念特別展として「よみがえるレトロモダン」を平成31年4月27日から令和元年5月12日まで開催しました。開催初日は、記念セレモニーとしてテープカットを行い、学芸員による展示解説を行いました。



テープカット

旧田代家西洋館は明治9年に建造され、和風と洋風が入り混じった擬洋風建築が特徴です。今回の特別展では、復原修理によって明治9年建築当初の姿によみがえった旧田代家西洋館を象徴する「明治」「輸出」「和洋折衷」「海外」といったテーマで、現代の有田焼を組み合わせ、テーブルコーディネートを行い、明治の建物の中で、現代と融合したレトロでモダンな雰囲気を多くの方々に感じ取っていただきました。



西洋館展示解説

指定記念特別展は会期がゴールデンウィークと重なったこともあって、期間中2,000人を超える方々にご来館いただきました。この特別展で西洋館をより多くの方に周知できたものと思います。



テーブルコーディネート
上：1階
下：2階



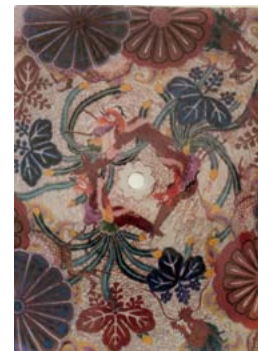
旧田代家西洋館 特製クリアファイル販売中!

旧田代家西洋館が国の重要文化財に指定されたことを記念して、新たに西洋館をデザインしたクリアファイルを作成しました。表面には建物の外観を載せ、裏面には2階に設置した明治期のシャンデリアの笠の写真を採用しています。

販売価格は1枚200円で、有田町歴史民俗資料館東館と有田陶磁美術館で取り扱っています。これまで通り「染付有田皿山職人尽し絵図大皿」をデザインしたクリアファイルも販売中です。



表



裏

特製クリアファイル

有田内山伝統的建造物群保存地区は、国から「重要伝統的建造物群保存地区」（以下、重伝建地区）に選定されています。地区内で実施している修理事業などについてご紹介します。

●伝統的建造物等の修理事業について

有田内山重伝建地区は、岩谷川内の下の口屋番所跡（眼鏡橋付近）から泉山の口屋番所跡までの約2kmの間で、15.9haの範囲となっています。地区内には、重要文化財（建造物）や歴史的な資産として指定を受けた161棟の伝統的建造物（以下、伝建物）と地区の景観に彩りを添えるトンバイ塀など130件の環境物件が混在し、有田内山らしい歴史的な景観が形成されています。

地区内では、指定を受けた伝建物の修理事業を行い、将来に向けて保存・活用していくことを目指し取り組

んでいます。これら修理事業は、建物の所有者と設計者、施工者、行政担当者が事前に十分な話し合いをしながら、工事の計画を立てます。具体的には、その建物の形式や意匠、工法、材料等を十分に検討して、文化財の建物としての価値を維持・回復するように努め、外観を元の伝統的な姿に戻していきます。

修理事業を実施する場合、費用の一部について助成を行っています。主屋の場合、費用の10分の8以内で、最高600万円が助成されますが、付属屋や環境物件では助成限度額が異なります。また、助成を受ける際は、一定の時期に一定の手順で事務手続きなどが必要となります。**令和2年度の事業を希望される方は、元年8月末までに計画書の提出が必要です。**助成の内容や手順などについてはお問い合わせください。

なお、平成30年度に実施した保存修理事業は次のとおりとなっています。

◎上幸平・成富清一郎家 屋根葺替、外壁改修、建具取替

内部の天井には雨漏りのしみが現れ、外壁2階のトタンは古く錆が現れていました。そのため老朽化の進んだセメント瓦を葺き替え、外壁2階のトタン張りを漆喰壁に復原修理を行いました。



Before



After

◎中の原・川口貴之家 屋根葺替、外壁改修、建具取替

屋根はセメント瓦の風化が酷く、庇には雨漏りによる腐食が見られました。そのため、瓦の葺き替えを行いました。また、タイル張り、モルタル塗りで改修されていた外壁を漆喰壁や板壁に復原修理しました。



Before



After

◎幸平・池田秀實家 屋根葺替、外壁改修、建具取替

屋根は老朽化した瓦に補修を繰り返し、内部は雨漏りが酷い状態でした。そこで屋根瓦を葺き替え、外壁は洗い出し壁の修理を行い、2階には鉄製の手摺りを復原し、アルミサッシを木製建具に取り替えています。東側（右側）外壁は板壁に復原しています。



Before



After

◎大樽・嬉野健家 外壁改修、建具補修

平成3年に修理事業で屋根瓦の葺き替えと正面外壁の修理工事を行っています。今年度は、土壁が崩落した西側（右側）壁や、汚れの目立つ正面漆喰壁の修理などを行いました。



平成3年



Before

After

●お問い合わせ 伝建地区での現状変更には申請が必要です。規制の内容や地区の範囲、修理事業等に伴う助成内容等については、有田町教育委員会文化財課まで、お問い合わせください。



平成30年度 寄贈資料紹介

平成30年度は、新たに下記の方々より貴重な資料を寄贈していただきました。大切に保存し活用させていただきますと思います。ありがとうございました。

秋山正樹様	色絵陽刻窓絵風景文手付皿と同文様の鉢（「肥後山信甫製」銘）2点
梶原茂弘様	丸大皿木型 1点
金岩昭夫様	色絵椿文鉢（「有14」銘）1点
岸川 敬様	幔幕 1点
手塚英樹様	ガラス乾板ほか資料8点、アルバム・写真等41点、書籍・典籍200点
深川 巖様	碁子（「大日本有田田代製」銘）2点
三宅加代子様	染錦四季花絵額鉢 1点
松尾博文様	銀杯（「巴里萬國博覧會出品連合協會紀念」裏銘刻印）1点
山本文子様	久富・田代家の製品4件5点



れきみん応援団視察研修 開催

5月14日(火)、れきみん応援団と有田史談会の合同で視察研修を行いました。研修先は、旧香港上海銀行長崎支店記念館と長崎歴史文化博物館です。

まず、旧香港上海銀行長崎支店記念館で、ボランティアガイドと記念館の職員の方に、館内を案内していただきました。この建物は、明治37年に建てられた国の重要文化財で、有田町の旧田代家西洋館と同様にボランティアガイドを活用して一般公開が行われている先進地として伺いました。館内ではガイドと職員の方から、旧香港上海銀行長崎支店の歴史や、孫文と梅谷庄吉の友情など詳しくご説明いただきました。



ボランティアガイドの方の案内で、旧香港上海銀行長崎支店記念館を見学中

次に、長崎歴史文化博物館では、館内を自由見学の後、松下学芸員から「長崎の焼き物についてー有田との関係からー」というタイトルでご講義いただきました。講義の後、常設展示室で長崎のやきものを見学し、「聴いて」・「見て」、深い長崎と有田のやきものつながりを実感しました。

両館の皆様には、大変お世話になりました。ありがとうございました。



松下学芸員による講義



人事往来

平成19年より有田町歴史民俗資料館及び有田陶磁美術館館長を務められました尾崎葉子前館長が、平成31年3月31日付けで退職されました。長年ありがとうございました。

平成31年4月1日からは、文化財課村上伸之課長が、館長も兼任することになりました。

また、新たに学芸員が1名採用されました。

新しくこの4月から文化財課の職員（学芸員）として加わりました宮木聖子と申します。主として歴史民俗資料館事業を担当しています。有田町の歴史についてはまだまだ勉強中ですが、一日でも早く一人前になれるように精進してまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

季刊『皿山』

通巻 122 号（令和元年 6 月 1 日）
編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒 844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目 4-1
☎ 0955-43-2678 FAX0955-43-4185
URL : <http://www.town.arita.lg.jp/main/169.html>